



ホリデープログラムによる子育て支援

まぶち
間淵

りょうご
領吾

関西大学社会学部 教授

New Zealand 国立Auckland大学アジア研究学部 客員教授

昨年4月から客員教授としてニュージーランドのオークランド大学アジア研究学部に滞在しています。いよいよ来月初旬には日本に帰国することになりますが、前回に引き続き、「子育て支援先進国」として知られるニュージーランドで家族と一緒に暮らしてきて感じたことの一部を紹介したいと思います。

今回ご紹介するのは、ホリデープログラム（Holiday Programme）についてです。ホリデープログラムとは、学校（幼稚園を含む）の長期休業期間中、何らかのサービス提供主体が子ども達（主として小学生以下）に有料で提供する学習・運動・制作プログラムのことです。そのメニューは実に多種多様なもので、日本人としては感心させられますが、そのことに触れる前に、まずニュージーランドの学年暦について簡単に説明しておきます。

ニュージーランドの小学校・幼稚園は、4学期制になっています（例外はあるかもしれませんが）。各学期の開始日・終了日は、学校によって微妙に異なるようですが、たとえば息子が通っている小学校の学年暦によれば、2009年度のホリデーは、以下のとおりになるようです。

秋休み：4月10日～4月26日（17日間）

冬休み：7月4日～7月19日（16日間）

春休み：9月24日～10月11日（16日間）

夏休み：12月18日～2月3日（48日間）

休業日数は計97日間となり、日本の小学生と比べると、休みが多いようです。

さて、学校の長期休業期間中、子どもをどのよ

うに過ごさせるかは、洋の東西（南北？）を問わず親の悩みとなります。保育園児であれば長期休業期間がないので問題ありませんし、中学生以上ともなればある程度は放っておいても良いのかもしれないませんが、小学生や幼稚園児の場合は、休み期間中、子どもの世話をどうするかが問題になります。特に共稼ぎの核家族や一人親世帯の場合、日中は子どもの世話をすることができないので大問題です。

ニュージーランドの場合、全人口の約3割がオークランド地域（オークランド市とその近隣地域）に住んでおり、どの世代も兄弟姉妹数が多いので、日本と同様に核家族が多く、単親世帯も増加してきているとは言っても、かなり近くに親戚が住んでいるのも事実です。実際、我が家の近所でも、小中学生の子どもがいる家族が祖父母と道路一本隔てただけの一軒家にそれぞれ住んでいて、毎日、行ったり来たりしているというケースもあります。もちろんこれは極端なケースですが、かなり近くに親族が住んでいるというのはさほど珍しくないようです。ですから、職業生活から引退した祖父母や働きに出ていない親戚等に子供たちの面倒を長期休業期間中も見てもらうという可能性はあるでしょう。フルタイムで働いている人が、毎日、午後3時に授業が終わる小学校生を学校まで迎えに行ったり（小学校には原則として親が送り迎えします）、夕方には会議を設定しない職場で働いていたり、夏休みを5週間とったりするのも珍しくはない国ですが、そういったことが不可能な家族にとって、問題解決策の1つが今回

ご紹介する「ホリデープログラム」です。

ホリデープログラムの実施主体は、博物館・美術館・図書館等の社会教育機関、各種スポーツクラブ、農家・牧場・養殖場や、初等～高等教育機関の教員（一人であったり、その家族が総出で対応したり）など、多様性に富んでいます。

また、内容も実に多種多様です。日本人の目から見ると「こんなに幼い子どもにこんなことまで体験させているのか！」と驚かされるものもあります。これらを網羅的に紹介することは不可能なので、ある業者のパンフレットに記載されているものや我が家の子どもが利用したものを紹介してみます。

アウトドア系：テニス（5～15歳）、スケートボード（6～13歳）、サッカー、フットサル、クリケット（いずれも5～13歳）、バスケットボール、フェンシング（いずれも7～13歳）、ゴルフ（6～16歳）、ロッククライミング、アーチェリー（いずれも6～13歳）、体操とトランポリン（8～14歳）、空手（5～10歳）、カヤック（6～14歳）、サーフィン（10～18歳）、ウィンドサーフィン（8歳以上）、スキューバダイビング（8～12歳）、乗馬（6歳以上）、補助輪なしで自転車に乗ろう（4～8歳）、マウンテンバイク（4歳以上）、キャンプ（8～15歳）等

インドア系：動物の飼い方（8～14歳）、料理（6～14歳）、クリスマスの飾り物制作（3～12歳）、凧を作って揚げてみよう（7～14歳）、ファッション・デザイン（7～15歳）、ロボット制作、ロケット制作（いずれも7～13歳）、手作りの石鹸と蝋燭制作（5～14歳）、デジタルカメラの撮影方法とフォトブックの作り方（10歳以上）、パフォーミング・アーツ&デイ・キャンプ（5～13歳）、妖精・海賊・お姫様になろう（3～8歳）、親子でキャンプ（0～5歳）、体操（3～9歳）、ロックスクール・ソングライティング（9歳以上）等

しかも、たとえばテニスをやるにしても、それは午前中だけで、午後は映画を見たり、ゲームをしたり、工作をしたりと、子供たちを飽きさせない工夫が満載です。

料金は、以下のような感じです。

- ・テニス：3～4日間、計\$55（2,750円）～\$199（約10,000円）
- ・カヤック：3日間10：00～12：00、計\$125（6,250円）

- ・スキューバダイビング：1日間、\$95（4,750円）
- ・乗馬：2日間08：00～17：15、計\$190（9,500円） 現地までの交通費込み
- ・クリスマスの飾り物制作：2日間13：00～17：00、計\$110（5,500円）
- ・外国人向け英語教室の教員家庭で運動・工作（昼食付）：10：00～13：00、\$30/day（日額1,500円）

また、ニュージーランド国立海洋博物館では、夏休みのある一日に朝9時45分から午後3時までかけて、同館所有の由緒ある帆船に乗って湾内をクルーズしてから沖に出て海釣りをして、船の仕組みも教えるという小学生向けプログラムもありました。釣竿も餌も博物館が用意してくれるので、弁当を持っていくだけの気軽さです。経費は、親子で計\$60（約3,000円）でしたが、当地でKing Fishと呼ばれているヒラマサなどが釣れました。このプログラムの場合には多少の危険も伴うので例外的に保護者同伴ですが、大半のホリデープログラムは、朝に連れて行き、午後に迎えに行くまで預かってくれるという形式で、昼食代が込みの場合もあります。

もちろん日本にもこの種のサービスを提供する民間企業や公共機関はあるようですが、ニュージーランドほど普及しているようにも思えません。また、日本には学童保育という制度があり、それらの中には夏休み期間中も子どもの保育を引き受けており、充実した内容を誇るものもあるとは思いますが、先ほど紹介したような内容に匹敵するものは少ないのではないかと思います。

金額は決して安価とはいえませんが、夏期講習とゲームと高校野球観戦と昼寝だけの夏休みよりは、子供たちにとって遥かに有意義な過ごし方のように思います。保護者にとっても、安心して各自の仕事に専念できる貴重な時間を提供してくれる制度のように思います。

日本でも家庭と仕事の両立や子育て支援のためにこのようなホリデープログラムを普及させることはできないのでしょうか。労働組合が組合員の福利厚生のために各界に働きかけたり、場合によっては組合が組合員へのサービスとして主催するというのも良いかもしれません。組合員以外の地域住民にも開放すれば、地域貢献にもなり、労働組合の社会的評価も高まるのではないかと思います。